

早期景気観測調査 新潟商工会議所管内 5月分 各業界からのコメント

◎建設業

- ・ コロナウイルスの影響がまだ続いている。ただこれから経済が回りだし、発注先の業績が良くなれば先送りの工事が出てくると思われる。
- ・ 3月期末の売上高爆増の反動で毎年4月、5月は低調に推移するが仕方がない。
- ・ 半導体不足やウッドショック、原油高騰の影響で建築資材や設備商品の全てが値上げ予定ということもあり、原価アップを売上価格に転嫁させることは急務であると考えている。
- ・ 新規で発生している案件数や既存顧客からの引き合い等は前年と比較して30%以上増加している。それを売上に繋げる事で今後の売上げが期待できると考えている。
- ・ コロナ禍対応については、引き続き気を緩めずにクラスター発生の予防を行っている。小さなお子さんを持つ社員の家庭内感染や濃厚接触は若干散見されるものの、特に業務に大きな影響はない。
- ・ 資材高騰、原油高騰にかかる施工への大きな影響はないが、今後の仕入コストアップを懸念する。また、営業提案段階で、それらの高騰にかかる建設予想単価アップについて、デベロッパーやエンドユーザーへ、早め早めの説明を丁寧に行うように努めている。
- ・ まん延防止等重点処置が徐々に解除され、日常の業務に戻りつつあり一安心しているが、今度はロシアのウクライナ侵攻による影響で、今まで以上に原材料の高騰が心配である。当社が得意としている古物商、機械部品再生業を再検討し、当面の危機を乗り越える計画を立案中である。
- ・ 依然として調達納期が不安定な機器資材がある。原油高の影響が心配である。

◎製造業

- ・ 新型コロナウイルスの感染者数は減少してきているが、相変わらず小学校や保育園等での学級閉鎖の影響で社員の休業が増え、生産の計画が余儀なくされている。また、あらゆる物の原材料の値上げの要請が相次ぎ、価格転嫁が希望通りなされるかが今後の大きな課題。
- ・ 5月から商品の値上げを行った。仕入原材料・紙箱に至るまで全て値上げとなった。
- ・ 鋼材ほか原材料の高騰・長納期化がさらに進む傾向。特に資機材の長納期化は、客先の要請に応えられず公共インフラの修繕に時間がかかる等影響がある。
- ・ ニッケル等、原材料高騰に加え、メーカーによるステンレス材の生産調整もあり、板材の市中在庫が非常に少なくなっている。市場価格も高騰しているが、それを価格や納期に反映できない部分もある。これからの課題である。

◎卸売業

- ・ 県外往来が可能になり、人の動きが活発になってきたため、小売業は売上げになるのではないかと。
- ・ 青果物の生育期に天候に恵まれ、順調な出荷が見込まれる。また、コロナの感染減少傾向による人流の拡大に伴う外食需要等の増加が期待される。
- ・ 人流に少し回復の兆しがあり、昨年よりも売上げが増加。中国のロックダウンの影響で商品入荷に一部支障あり。
- ・ 公共資材卸売りのため、公共工事端境期で動きが低調。
- ・ 中国のゼロコロナ政策による経済的な混乱（製造、流通など）が不安。

◎小売業

- ・連休後のオミクロン株の拡大が懸念される。
- ・ロシアとウクライナの戦争の影響は、原材料の高騰による採算の悪化が大きいと思うが、コロナによる自粛の影響は、前回のまん延の時より減少すると考えている。したがって、売上等は回復に向かうのではないかと思う。

◎サービス業

- ・ゴールデンウィークで人流が増えたことで、感染者数が再び増加傾向になり、第7波が来るのではないかと心配している。なかなか経済が上向きになっていないのが現状。
- ・コロナ感染者及び濃厚接触者となって稼働要員数が減少しないことを願うのみである。
- ・前年が既にコロナ禍の影響を真に受け、従来の運送収入は半減しており、今年は多少の上下はあるが、あまり変化がない。過去に体験したことのない程の悪い状況にある。
- ・燃料費（LPG）の上昇は補助金などで若干の穴埋めが可能となったが、人出が従前に戻る気配がないために売上が伸びることが無く、まだまだ採算は取れる状況にはない。今年の賃上げは不可能であることから、社員には辛抱してもらった。
- ・連休もあったが、業種としては特に変わった所はなかった。日中の人の流れは多いものの、夕方、夜間帯は人通りが無く、お家時間が定着しているように思われる。
- ・福祉施設では面会ができにくく、入居に関して足踏み状態が続いている。まだ戦争の影響はないが、今後、食品材料の値上げが懸念される。
- ・今後の原材料高騰とコロナウイルスの第7波がどうなっていくかが今年の経済に大きく関わっていくと思う。心配である。
- ・建築設計業界は建築資材の高騰などで総予算が高くなり、基本設計を見直す必要性が出ている。
- ・仕入単価が毎月毎月上昇しているが、業界的に簡単に値上げはできず、八方塞がりの状態。
- ・原油高騰の影響が長期化しており、4月より取引先への価格転嫁をお願いせざるを得ない状況。
- ・各種イベント開催が売上回復において好影響となっている。しかし、原油高騰によるガソリン価格上昇が利益を圧迫する形となり、収益に反映されない状況となっている。政府の経済対策では、原油高騰や半導体不足に対する迅速な対策を期待したい。
- ・人流の増加が大きく影響する業界であり、このゴールデンウィークは全国的に人の移動が増加し、連休明けに通常の社会生活がどれだけ戻ってくるのかを期待しているところ。ウィズコロナの生活が定着し、感染を正しく防止しながら、人流が増えていくことに世間が納得しはじめてきた。あとは燃料を含めた原材料価格の上昇を国民と企業にどこまで支援することができるのかが、大きな課題になると思われる。
- ・新型コロナウイルス感染拡大も一進一退で、ウィズコロナの風潮でGWの人流も増えているが、消費者物価上昇のあおりで今一つ伸びが無い。また、食材・商材の価格高騰により原価及び営業経費の上昇で利益が圧迫されている。
- ・ロシア・ウクライナの紛争が長期化する恐れがあり、設備更新にも影響がでている。新規設備投資に二の足を踏む。
- ・昨年一昨年と比べ、新型コロナウイルスの感染者数は大きく減っていないようだが、ワクチンの3回目接種も浸透し、少しずつ状況が回復してきたように感じる。しかし、コロナ感染拡大に加え原油高騰の影響もあり、原材料や資材の確保が難しくなったり価格が全体的に高騰する状態が続いて先の見

通しが立たない。

- ・人材不足の状態であり、若い人材の確保がまったくできていない。相談機関を探し、方法やシステムを考えていくとともに、今ある人材で事業を続けていく方法を構築していかなければならない。